



特集 高校球児たちの熱い夏



試合ができるだけでもうれしい。そう語ったのは、今大会で初めて公式戦のマウンドに上がった鈴木健人選手(2年)。昨年夏の大会後、部員が4人だけとなった県立東海高等学校野球部は、部員集めからスタートしましたが、つらくとも諦めずに練習に励んできました。今回は、逆境にも負けずチーム一丸となって立ち向かい、夏の大会に挑んだ彼らの夏を特集します。



最後の大会に懸けた思い

2人だけの3年生部員である、野口将平選手と安掛真裕選手。これまで多くの苦難を乗り越えてきた彼らがいたからこそ、東海高校野球部は熱い思いを持って試合に臨むことができました。

小学校から我が子の試合を見てきた彼らの母親たちは、「今日の試合で最後になるかもしれない…。ただ全力で頑張ってほしい」という気持ちで彼らの勇姿を見守っていました。

つかんだ3年ぶりの勝利

7月10日、ひたちなか市民球場で行われた第2試合。相手は石岡商・潮来・竜ヶ崎南の連合チーム。毎回出塁を許したものの、東海高校は序盤の連打でリードし、その後も粘り強く守り切り、12-0と夏の大会では3年ぶりの勝利を飾りました。

7月14日に行われた2回戦では、シード校である県立取手松陽高等学校を相手に、8回まで一進一退の攻防を繰り返しました。

結果、敗れましたが、部員たちの顔には確かな達成感が感じられました。村内ただ一つの高校である県立東海高等学校。地元、東海村を盛り上げてくれた彼らの今後が楽しみです。



感謝の言葉しかありません



野口将平さん(主将・3年)
最後の公式戦で初勝利
できてうれしい気持ちで
いっぱいです。辞めたい

と思ったり、勝てるか不安になつたりしたこともありましたが、諦めないで頑張ってきて良かったです。3年間ずっと支えてきてくれたマネージャーや監督、コーチ、応援してくれた生徒の皆さん、そして両親には感謝しきれませんが、今回の勝利で少し恩返しが出来たと思います。

このチームで本当に良かった



中林真衣さん
(マネージャー・3年)
勝った瞬間、これまでの
の部員たちの努力が報わ

れたと思えました。勝てなくてつらい時期もありましたが、今日の試合は一生の思い出になりました。このチームで勝利できたことが本当にうれしいです。

